

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第114回本部会議 記録

日 時／令和4年6月21日（火）
17：30～：17：55
場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第114回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。まずスライド1です。主な指標の状況についてです。6月20日時点で、新規感染者数は、今週先週比で引き続き1を下回っておりまして、人口10万対の新規感染者数は、札幌市111.3人、札幌市を除く地域で89.6人、全道で97.8人といずれの地域も減少が継続しております。療養者数も同様の傾向でございます。

また、病床使用率も札幌市12.4%、札幌を除く地域で7.9%、全道9.4%と引き続き減少が継続しております。

続いてスライド2です。各圏域の状況を見ますと、新規感染者数は全ての圏域で先週比が1を下回っておりまして、減少傾向が継続しているほか、病床使用率は道北圏を除く全ての圏域で、引き続き減少している状況でございます。

続いてスライド、3総評です。医療提供体制です。療養者数は、減少傾向が続き、人口10万対138.1人。病床使用率の減少傾向が継続し9.4%。6月17日に、1月11日以来、5ヶ月ぶりに10%を下回っておりまして、ここ数日の減少が継続しております。

感染状況です。新規感染者数は、人口10万対97.8人、1ヶ月以上に渡り先週比が1を下回るなど、減少傾向が続いているものの、最近の減少速度は緩やかになっております。年代別では、30代以下の割合が約6割であるほか、60代以上が1割を超えております。

今後の対策です。新規感染者数は、5月14日のピークと比べますと、約7割減少しているものの、引き続き、感染の広がりを抑えるため、3つの行動の実践や、ワクチン接種促進の働きかけについて「感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願い」によって、その実践の呼びかけを行ってまいります。また、気温が上昇、換気しやすい時期となりますので、こまめな換気についても呼びかけを行ってまいります。

この夏は、様々な地域イベントの再開が予定されており、感染防止対策はもとより、安全にも十分配慮した開催となりますよう、市町村と連携しながら主催者に働きかけを行ってまいります。

次にスライド4、総評2です。無料検査事業のうち、感染拡大傾向時の一般検査事業は、現下の感染状況を踏まえまして、7月末まで事業期間を延長します。

3回目接種ですが、若年層をはじめとする接種促進に向けまして、道内の大学と連携し、学生対象のセミナー開催など、様々な機会を捉えた働きかけを行ってまいります。道の接種センターが実施するノババックスワクチンの接種ですが、未接種者を含め、3回目までの接種を終えていない方に接種を検討いただきますよう、丁寧な情報提供を行いますほか、市町村での接種実施につきましても、引き続き、調整を進めてまいります。

4回目接種は、7月2日から、道の接種センターでも集団接種を始めることとしまして、6月24日から予約受付を開始いたします。また、市町村での4回目接種の促進に向けまして、引き続き市町村支援に努めてまいります。

6月17日、国は「新型コロナウイルス感染症に関するこれまでの取組を踏まえた次の感染症危機に備えるための対応の方向性」を決定し、医療提供体制や保健所体制の強化、特措法の効果的な実施などについて、方向性を示したところをございまして、今後、その具体化に向けた国の検討状況を注視してまいります。

続いてスライド5以降について、何点か主要な動向などを補足説明いたします。

少しスライド飛ばしまして、スライド20をご覧くださいと思います。棒グラフの右側のとおり、新規感染者はいずれの年代でも5月中旬以降急激に減少しておりまして、その後も現在まで減少は継続しているものの、6月上旬以降は、その減少速度が鈍化傾向にございます。

続いてスライド23をご覧くださいと思います。年代別の感染者割合ですが、4月までは30代以下が70%を超えておりましたが、現在は65%前後が続いておりまして、概ね横ばいで推移しております。また、60代以上は5月中旬以降、1割を超え、徐々に増加傾向にあったものの、最近では12%前後が続き、概ね横ばいで推移しております。

スライド25をご覧くださいと思います。ワクチン接種に関し、3回目接種の状況ですけれども、6月19日現在ですが、VRSベースで約3,292,000人。接種率は63.0%。このうち65歳以上の高齢者の方は、約1,493,000人、接種率は89.5%。下段の表になります小児の接種率はいまだ高くはないものの、1回目が19.5%、2回目16.8%と、いずれも全国を上回る状況にございます。

スライド26をご覧ください。全道の3回目接種の年代別の状況ですが、65歳以上で89.5%と、高い水準にありますものの、10代では未だ28.6%にとどまっている状況にあります。また、20歳代、30歳代の接種率ですが、全国の接種率を若干上回っておりますものの、依然、他の世代よりは低いことから、若年層の接種の更なる加速化に向け、市町村の取組を積極的に支援してまいります。

続いてスライド28をご覧くださいと思います。二つ目の丸になります。若者向けの普及啓発事業として、道内の大学と連携いたしまして、大学生を対象としたセミナーを札幌市と協働により開催する予定としております。

スライド29をご覧くださいと思います。道の接種センターで、6月5日（日）から毎週日曜日に実施しておりますノババックワクチンの接種ですが、本日、7月10日分の予約受付を開始したものの、既に予約枠を満たしてございまして、次の予約は、7月17日接種分を来週、6月28日から受付する予定としてございます。

最後にスライド31をご覧くださいと思います。重症化予防を目的として、60歳以上の方や18歳以上で基礎疾患を有する方などを対象に、5月25日から接種を進めております4回目接種ですが、7月から8月にかけて、道内の接種対象者がピークとなると見込まれておりますので、その接種促進に資するよう、道医師会、札幌大、薬剤師会、看護協会などのご協力の下、道の接種センターで4回目接種を実施することといたしました。7月2日から8月27日までの土曜、祝日の計10日間ですが、1日当たり360名の接種を予定してございまして、6月24日（金）10時からになります。予約受付を開始する予定としております。

その他のスライドにつきましては、本日の説明に関しますデータや情報ですので、後ほどご覧くださいと思います。資料1の説明は以上になります。

引き続きまして資料2をご覧くださいと思います。

資料1の道内の感染状況等について、専門家や有識者の皆様のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしているところです。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見をいただいております。その主なものについてご紹介いたしますと、1のとおり、感染状況を踏まえ、現状の対策は理解をする、2のとおり、感染者の減少が続き、今後経済対策も進み、ウィズコロナに向け、新たな局面と考えられることから、国や道の施策に期待をする、3のとおり、オーストラリアでは、インフルエンザの流行が見られており、秋から冬にかけてのインフルの流行や、新型コロナとの同時流行への対応を検討しておくべき、4のとおり、感染状況が落ち着いているので、第7波に向けての体制整備をお願いしたい、5のとおり、夏を迎えて人の動きが増えるので、引き続き感染対策が必要。また、道民のワクチン接種について、高齢者の4回目接種と、若い方々への3回目接種の呼びかけをお願いしたい。こういったご意見が寄せられております。こうした面につきましては今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして札幌市の感染状況についてご説明をいたします。それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計についてであります。昨日、6月20日の時点では、2,183人です。人口10万人当たりでは111.3人と減少が続いております。

それでは、次のスライドをご覧ください。札幌市の入院患者数でございますけれども、黄色の棒グラフであります。昨日の時点で75人ということで100人を下回る状況が続いております。速やかに必要な医療に繋ぐことが可能な状況でございます。重症患者数は赤の折れ線グラフでございますが、0人の状況がしばらく続いている状況です。

それでは、最後のスライドをご覧ください。検査件数でありますけれども、直近の1週間では11,487件の検査を実施してございます。陽性率でありますけれども、昨日の時点で19.0%と、20%を下回る状況で推移してございます。

感染状況には落ち着きが見られておりますが、医療機関や高齢者施設での集団感染が散発的に発生していることから、重症化リスクの高い方と接する際には特に注意を払うなど、引き続き、場面に応じた基本的な感染対策の徹底が重要と考えてございます。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から順次発言をお願いいたします。観光振興監からお願いします。

【山崎観光振興監】

どうみん割の対象期間の延長についてご報告いたします。先週17日、国は、どうみん割の財源である補助事業について、支援期間の延長を発表したところでございます。これに

伴い、本日、道といたしましても、現在6月30日利用分までとしているどうみん割を、7月14日利用分まで延長することを決定し、6月22日正午から予約販売を行うことといたしました。なお、延長にあたり、道では有識者の皆様にご意見を聴取したところであり、ご回答いただいた皆様からは、いずれも理解を示していただきました。また資料の下に示したとおり、今回、国においては、感染状況の改善確認を前提として、7月前半から需要喚起の対象を全国に拡大する考えも示されたところでもあります。道といたしましても、感染状況に留意しながら、国の方針を踏まえて、どうみん割を変更していく考えでございます。今後、国から具体的内容が示され次第、改めて有識者の皆様のご意見を伺いした上で、速やかに決定、公表してまいりたいと思っております。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、オホーツク総合振興局長からお願いします。

【中島オホーツク総合振興局長】

管内における感染防止対策の取組について、ご報告いたします。初めに緑の囲みにありますとおり、1の管内の感染状況についてでございますけれども、新規感染者につきましては、右のグラフにありますとおり、2月に増加して以降、3月より減少傾向で推移しておりましたが、就職や転勤など人の移動が活発になった新年度に入りまして、急激に増加いたしました。4月12日には管内で初めて新規感染者数が100人を超えるなど、4月の月累計につきましては、2月の2倍となる2,992人となったところでございます。また、5月18日には、これまでの最多であります171人を記録しています。今月の月人数につきましては、昨日、6月20日時点で1,023人と減少傾向でありますものの、6月8日には再び100人を記録するなど、管内の感染状況は減少傾向にはあるものの、その程度は緩やかになってございまして、危機感を持っているところでございます。次に赤の囲みにありますとおり、こうした状況を踏まえた振興局の取組でございますけれども、まず、2のワクチン接種の促進といたしまして、若い世代に向けました接種促進の取組として、先週、網走市にあります東京農業大学で出前講演がございましたので、その際に、3つの行動の取組及び3回目ワクチン接種の検討につきまして、私の方から約100名の学生の皆さんに直接協力を呼びかけを行ってございます。

次に、3の感染防止対策でございますけれども、北見市内におきまして、若年層の感染が継続していることから、オホーツク教育局と連携しまして、北見市教育委員会の理解、協力を得ながら、保健所と教育局による各学校における感染症対策の把握ですとか、今後の対応策に係る指導、助言をする学校訪問を合同で実施いたしました。学校訪問につきましては、訪問先の学校からは、大変参考になった、今後の感染予防対策に活かしたいとのコメントをいただいております。また、ゴールデンウィーク後における感染防止対策の協力を依頼するメッセージを、振興局と教育局と連名で作成いたしまして、市町村教育委員会を通じて展開したところがございます。

次の丸の広報啓発でございますけれども、4月上旬には当時の最多の感染者数を記録するなど、増加傾向が見られたことから、再拡大防止対策に係る緊急メッセージを作成いたしまして、報道機関やSNS、ホームページを通じまして、管内関係機関等に広く発信した

ところでございます。

その他、これまで同様、時期に応じまして、右下にございますけども、感染対策徹底の注意喚起と、ワクチン接種促進、観光PRを兼ねました啓発ポスターを作成し、市町村、関係団体、大学、観光施設等に掲示してもらうとともに、SNSやホームページなどのあらゆる媒体を活用いたしまして、注意喚起の継続に努めるとともに、保健所体制確保といたしまして、振興局職員の応援派遣を行っているところでございます。

オホーツク総合振興局といたしましては、今後とも、管内の感染状況を注視し、感染拡大をより踏まえながら、引き続き、市町村や関係機関と連携した感染防止対策の行動の徹底ですとか、ワクチン接種の呼びかけなどに取り組むほか、保健所支援を通じて、その機能維持を図ることによりまして、管内における感染の拡大防止に努めてまいりたいと考えてございます。

報告は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

そのほかご発言ありませんか。なければ本部長から。

【本部長（知事）】

本日の新規感染者数は、473人と、新規感染者数の減少傾向が続いています。昨日の人口10万人当たりでは97.8人となりました。病床の使用率も減少傾向が継続し、9.4%となりました。6月17日以降は、約5ヶ月ぶりに病床使用率については10%を下回る水準で推移をしております。一方で、最近の感染者数の減少速度については、緩やかになってきています。感染状況に応じ、様々な活動が活発になっている中、道民の皆様には感染の広がりを抑えていくため、引き続き、「普段から」「飲食では」「感染に不安を感じる時は」というこの3つの行動の徹底、そしてワクチン接種の検討をお願いいたします。

これから本格的な夏を迎えるわけでありまして。地域イベントが各地で再開されるなど今後、様々な活動がより一層活発になっていきます。このため、市町村とも連携して、感染防止対策はもとより、参加される方が安心して楽しむことができるよう、安全にも十分配慮した開催について、イベントの主催者に働きかけをしてほしいと思います。

感染に不安を感じる時における無料検査については、6月末までとしていた期間について、7月末まで延長することにいたします。薬局などの事業所で検査を受けることができますので、是非、積極的にご利用いただくようお願いいたします。

ワクチンの3回目の接種については、全道で6割を超え、若年層の接種率も着実に増加をしてきています。もう一段の接種促進に向けて、大学生を対象に、札幌市と連携し、感染予防のセミナーと訪問接種を組み合わせた取組を実施します。各本部員、地方本部員においては、市町村や関係機関と連携して、こうした取組を踏まえて、若年層の接種が進むように効果的に働きかけをしてほしいと思います。

また、3回目接種までを対象に、道のワクチン接種センターで、ノババックスワクチンの接種を実施しています。道民の皆様から高い関心をいただいております。本日、7月10日分の予約受付を開始をしたところでありますが、既に予約済みになりました。次の7月17日分につきましては、6月28日に予約受付を開始いたしますので、これまで副反応の心配から接種を控えていた方などについては、是非、ノババックスワクチンの接種を検討していただきたいと思っております。

4回目接種については、今後、接種時期のピークを迎えますことから、道のワクチン接種センターを活用して、集団接種を実施することにいたしました。予約受付については、6月24日から、接種は7月2日から開始いたします。引き続き、市町村における接種の支援に積極的に取り組むとともに、道の接種センターの準備を進めて、4回目のワクチン接種の促進に向けて万全の体制で取り組むように指示をいたします。

6月17日、国は、今後の対応の方向性を決定いたしました。政府の司令塔機能の強化、医療提供体制や保健所の体制の強化、特措法の効果的な実施などについて検討するとされています。道では、これまで、重点措置の適用をはじめ特措法の運用について、国としての考え方を示すように求めてきたところであり、今回決定された方向性に基づき、今後、措置の実効性の向上などについて国の検討が進んでいくことから、情報収集に努めるように指示をいたします。

最後にどうみん割についてです。これまで6月30日利用分までとしてきましたが、こちらを7月14日利用分まで延長することといたします。引き続き、感染対策を徹底した上で、どうみん割をご利用いただくように、利用者、事業者双方への周知に努めてほしいと思います。

私から以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、各本部員は必要な対応をお願いします。
以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第114回本部会議を終了します。

（了）